47　修学院焼ふくべ形香炉　江戸中期（18世紀前半）　陶磁　径18.0、高17.5

修学院焼は、修学院離宮内で後水尾上皇と霊元上皇の時代に作られた御庭焼である。現存作例が少なく、本作はきわめて貴重な遺品に数えられる。伝来から、享保年間（18世紀前半）の霊元上皇の時代に製作されたと推定される。瓢（ふくべ）とは、かんぴょうの原料となるウリ科ユウガオの実のこと。蓋となる葉は細かい葉脈まで表されており、実物をそのままやきものにしたかのような、すぐれた写実的造形である。底部に扇形に「壽」の鉄絵による銘がある。

蓋を被せた姿

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

若梅に撫子――旧高松宮家と伝来の品々
三の丸尚蔵館展覧会図録№62

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十五年三月二十六日発行
© 2013, The Museum of the Imperial Collections